

インターバンクの声（2017年6月19日）

週末のニューヨーク市場では、5月の米住宅着工件数や6月のミシガン大学消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことでドルが全面安となった。円相場も111円30銭台から110円台半ば近くまで円買い・ドル売りが進んだ。

一週間前の週末(9日)も米長期金利の低下などからドルが売られ、その前週の週末(2日)には、5月の米雇用統計で非農業部門雇用者数の伸びが予想を下回ったことで、やはりドルが売られている。

6月に入ってからの週末は、ドルにとってはどうも鬼門になっている。特に先週は水曜日の米小売売上高や消費者物価指数が軒並み悪化した後、翌日にトランプ大統領が「GDPはとても良い数字が近く発表される」と発言したことからドルが持ち直していただけない、これだけ弱い指標の発表が続くと、大統領の言葉が逆に不安になる。大統領の発言は、29日に発表される第1四半期GDP確報値のことを指しているのだろうが、市場が今週発表される米中古住宅販売や新築住宅販売が弱かった場合にドル売りを躊躇することになるのかどうか注目だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。